Hamamatsu Museum of Musical Instruments
浜松市楽器博物館だより
No. 91
2014. 8. 10
本紙はホームページでも見ることができます。

特別展 バグパイプ博覧会パート2
～風に歌う、風に響く～バグパイプの世界～開催中

皮袋（バッグ）にためた空気で笛（パイプ）を鳴らす素朴な楽器「バグパイプ」の展覧会が８月２日(土)から始まりました。2010 年に開催したバグパイプ博覧会の続編で、今回も世界各地のバグパイプの展示部門と、コンサートやワークショップ、製作家ブースのイベント部門の２つで構成されています。

展示は最もよく知られているスコットランドのハイランドパイプをはじめ、アイルランド、スペイン、フランス、イタリア、トルコ、クロアチア、ウクライナなどから総計 41 点を展示。うち 37 点は島根県松江市のコレクター楫康治氏、１点は山根篤氏からの提供です。

バグパイプは皮製の袋に空気を口で吹き込むか、または、ふいごで送り込み、わきに挟んだその袋を押して空気を出し、笛を鳴らします。笛はメロディを吹く管（チャンター管）と、同じ低音をずっと鳴らし続ける管（ドローン管）があり、ドローン管は無いものから 3 本のものまで地域により多様です。皮袋はそのままむき出しのものもあれば、美しい布製のカバーで覆ってあるものまでこれも多様です。皮袋は山羊などの動物の皮なのですが、動物の頭や足だったことがはっきりとわかるものもあり、中には動物の頭の彫刻付きも。人と動物の絆がよくわかる楽器です。

イベント部門は８日（金）～ 10 日（日）で、８日は午後７時から「バグパイプ、その多彩な仲間たち」、9 日は午後 6 時から「バグパイプの歴史と文化～ダンスを交えて～」というイヴニングサロンコンサート。どちらも 10 種類のバグパイプが登場。9 日と 10 日の開館中には、展示室内にある天空ホールにてリレー方式のミニコンサートを開催。ここでは電子バグパイプが登場したり、コレクターの楫さんによる収集の裏話も紹介されて笑いの場面も。また両日とも、日本人のバグパイプ製作家 3 人がブースを出してバグパイプの紹介やお客さんからの質問に答えたり、時間を決めて演奏体験ができるワークショップを開催したりと、盛りだくさんなプログラムでした。

今回の展示は、前回と違って、バグパイプの立体性を損なわないように、操り人形方式の吊り展示を採用しているのが特徴。「立体的展示をどうするか、いろいろ考えまして、はたと思いついたのが糸操りの人形。釣り糸のテグスで吊ってありますから、バグパイプが宙に浮いているように見えて、なかなかかっこいいのです。」と展示にあたった嶋館長。

なお、前回と同じく、イベント部門は演奏者の近藤治夫氏、上尾直毅氏、山根篤氏による実行委員会を組織して（委員長は近藤治夫氏）、博物館との共催で細かな企画をしていただきました。

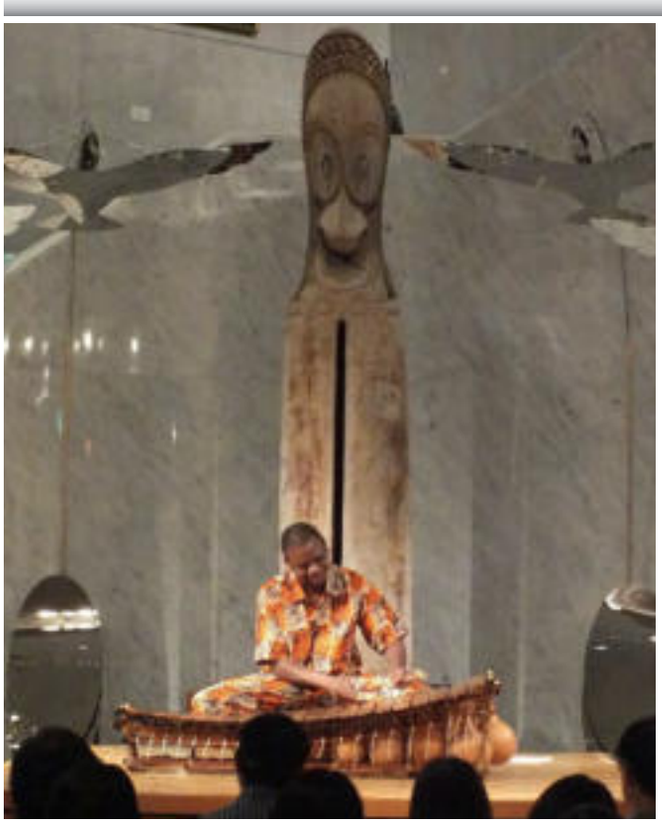
レクチャーコンサートNo.165 「クリシュナの笛～バーンスリー～」

バーンスリー奏者の中川博志さん、タブラ奏者の中尾幸介さんをお迎えしてコンサートを開催しました。バーンスリーとは古代インドで親しまれてきた横笛で、タブラは、高音のタブラと低音のバーヤという２種類の太鼓のことです。今回はカヤールというスタイルで行うため、バーンスリーの伴奏楽器にタブラが使用されました。

第一部は中川さんによる北インド古典音楽についてのお話でした。その中でも、ジャズのような即興演奏の要素が強いヒンドゥスターニー音楽を取り上げていただきました。複雑な理論のインド音楽ですが、わかりやすく解説していただきました。ヒンドゥスターニー音楽は、ゆっくりのテンポから始まり最速で終わるという演奏方法が特徴的です。また、インド音楽では音階のことをラーガといい、ラーガには細かな規則があります。ラーガの種類は数百種もあり、それぞれに名前が付けられています。また、使われる時間帯、季節、感情などの性格が決まっています。第二部は、タブラの中尾幸介さんも加わって深夜のラーガを 40 分にもわたる即興演奏で聴かせて頂きました。満月の夜を想わせるような神秘的なバーンスリーの音と、雰囲気のあるタブラの独特なリズムや音が心地よく会場を包みました。

日　時：平成 26 年 7 月 5 日（土）　18:00 ～ 21:00
会　場：楽器博物館天空ホール
出　演：中川博志、中尾幸介　　入場者 :62 人

イヴニングサロンコンサート「アフリカの魂・バラフォン」



日　時：平成 26 年 8 月 4 日（月）　19:00 ～ 20:00
会　場：楽器博物館天空ホール
出　演：ムッサ･ヘマ　　入場者 :57 人

元ブルキナファソ国立舞踊団首席バラフォン奏者、ムッサ･ヘマさんをお迎えしてコンサートを開催しました。

バラフォンは西アフリカの木琴で、鍵盤の下には共鳴体となるヒョウタンがついています。このヒョウタンに孔を開け、そこに地蜘蛛の巣や豚の腸の内膜、薄いビニールなどを張っておくと、鍵盤を叩いた時に木の温かい音色と共に「ビリビリ」と鳴る音が聞こえます。この「ビリビリ」という音がアフリカの音の特徴でもあるのです。

バラフォンを演奏することは、選ばれた楽士の家系に生まれた子孫だけが引き継ぐことを許されるのだそうです。彼らはグリオと呼ばれ、歴史や物語を語る吟遊詩人です。ムッサ･ヘマさんもグリオの家系に生まれ、5 歳からバラフォン奏者である父の下で伝統的奏法を学びました。アフリカの音楽は、楽譜を見て練習するのではなく、先生の演奏を聴いて何度も練習し、曲を記憶して習得していくのだそうです。現地の人々は旋律を聴くだけでグリオの語る物語がわかると言います。

演奏は即興的にされていて、曲の後半に向かうにつれて細かくなり、超絶技巧が多く使われていました。曲にはそれぞれメッセージがあり、平和を残してほしいという想いがこめられた歌詞を会場のお客さんと掛け合いで歌う場面も見られ、最後はお客さん全員が立ち上がり大いに盛り上がりました。

ワークショップ「韓国の太鼓チャンゴを演奏しよう！」

チャンゴ奏者のリチャンソプさんを講師にお迎えしてワークショップを開催しました。

チャンゴは、韓国の伝統的な太鼓です。日本の鼓に似ていて、両側の鼓面は音の高さが違います。鼓面は馬や牛の皮を使っていて、胴は桐でできています。演奏方法は、左手には先端に球がついているクングルチェ、右手には竹でできたヨルチェというバチを持ち、太鼓を叩きます。

今回のワークショップでは、リチャンソプさんに実演をしていただきながら、初心者でも取り組みやすい「チュンモリ」「フィモリ」というリズムを教えていただきました。これらのリズムは、「起承結解」の考えに基づいています。チャンゴを演奏する時に大切なのは、『リズムを刻む』ではなくて『意味を打つ』という感覚です。そうした、楽譜には書くことができない躍動感のある音を、丁寧にわかりやすく指導していただきました。最後に、ケンガリ、チン、プクという韓国の伝統楽器を加えて、アンサンブル「サムルノリ」の体験もしました。チャンゴ、ケンガリ、チン、プクはそれぞれ雨、雷、風、雲を表現し、４つの楽器で奏でる曲は天地や宇宙、陰陽五行を意味するそうです。参加者の皆さんは、韓国の文化やチャンゴの奥深い世界を堪能しました。

日　時：平成 26 年 7 月 26 日（土）　18:30 ～ 21:00
会　場：楽器博物館展示室
講　師：リチャンソプ　　参加者 :8 人

ワークショップ「雅楽の楽器・葦の笛　ひちりきを吹こう」

篳篥（ひちりき）奏者の中村仁美さんを講師にお迎えし、初めて篳篥のワークショップを開催しました。篳篥は日本に千年以上前から伝わる雅楽で旋律を奏でる楽器です。オーボエやファゴットと同じダブルリードの管楽器で長さ 18 ㎝程度と小さな笛ですが、とても大きな音が出ます。

雅楽で最も有名な曲「越天楽」の旋律を吹くことを最終目標に、まずは「唱歌（しょうが）」という歌で旋律を歌いました。雅楽の曲は、音を文字や記号で書き表した楽譜と、それを歌う唱歌で伝えられてきました。参加者は唱歌の楽譜を見ながら先生の歌い方をよく聴いて、真似して何度も歌いました。

旋律を大体覚えたところで楽器を持って吹いてみます。篳篥のリードである「蘆舌（ろぜつ）」は葦でできていて、奏者が葦材を調達し自作するもので、ひとつとして同じものがありません。温かい緑茶に浸しながら、開き具合など、先生がその場で細かな調整をしてくださり、参加者全員が音を出すことができました。

最後に「笙」と「龍笛」もご紹介いただき、雅楽の 3 種類の管楽器を間近で聞く貴重な機会となりました。日本の伝統音楽の中でも触れる機会の少ない雅楽ですが、このワークショップを通して、参加者の皆さんには雅楽をより身近に感じていただくことができたのではないでしょうか。

日　時：平成 26 年 7 月 27 日（日）　13:30 ～ 15:00
会　場：アクトシティ浜松 研修交流センター
講　師：中村仁美　　参加者 :19 人

新発売！！楽器博物館コレクションＣＤ「森の響き」

毎回高い評価をいただいているコレクションシリーズ CD。最新作 No.48 はナチュラルホルンをメインに、ブラームスの曲をお届けします。ナチュラルホルンをヴァルトホルン（森のホルン）と呼んで自ら愛奏し作品を書いたブラームス。名作「ホルン三重奏曲」を当館所蔵のヴァルトホルンとフォルテピアノを使って演奏しています。塚田聡（ナチュラルホルン）、小倉貴久子（フォルテピアノ）、桐山建志（ヴァイオリン）の息の合った演奏をお楽しみください。

収 録 曲：ヴァイオリンソナタ　ト長調 作品 78
　　4 つのクラヴィーア小品集 作品 119
　　ホルン三重奏曲　変ホ長調　作品 40
使用楽器：ナチュラルホルン（A. クルトワ　1841 年以前　パリ）
　　フォルテピアノ（グロトリアン－シュタイヴェーグ　1885 ～ 1890　ドイツ）

博物館日誌

7/5　（土）レクチャーコンサート
「クリシュナの笛～バーンスリー～」
18:00　天空ホール　出演：中川博志、中尾幸介
入場者：62 人
7/20（日）ミュージアムサロン「アンクルンをひこう！」
14:00　天空ホール
出演：当館職員（小池真梨、鈴木潤子）
入場者：48 人
7/21（月）ミュージアムサロン「アンクルンをひこう！」
14:00　天空ホール
出演：当館職員（小池真梨、鈴木潤子）
入場者：38 人
7/26（土）ワークショップ「韓国の太鼓チャンゴを演奏しよう！」
18:30　研修交流センター　講師：リチャンソプ
参加者：8 人
7/27（日）ワークショップ「雅楽の楽器ひちりきを吹こう」
13:30　研修交流センター　講師：中村仁美
参加者：19 人
ミュージアムサロン　「チャンゴとコムンゴ」
14:00、15:30　天空ホール
出演：リチャンソプ、パクソニョン
入場者：133 人
8/3　（日）ミュージアムサロン「ブルーグラスバンド」
14:00、15:30　天空ホール
出演：カントリーフロンティア　入場者：181 人
8/4　（月）レクチャーコンサート「アフリカの魂・バラフォン」
19:00　天空ホール　出演：ムッサ・ヘマ
入場者：57 人
8/8　（金）イヴニングサロンコンサート
「バグパイプの世界パート 1
　バグパイプ、その多彩な仲間たち」
19:00　天空ホール　出演：近藤治夫、山根篤ほか
入場者：94 人
8/9（土）イヴニングサロンコンサート
「バグパイプの世界パート 2
　バグパイプの歴史と文化～ダンスを交えて」
18:00　天空ホール　出演：近藤治夫、山根篤ほか
入場者：125 人
ミニコンサート「バグパイプ」
10:00 ～ 16:00　天空ホール
出演：近藤治夫、山根篤ほか　入場者：678 人
8/10（日）ミニコンサート「バグパイプ」
10:00 ～ 15:00　天空ホール
出演：近藤治夫、山根篤ほか　入場者：786 人

これからの催し物

●展示室ガイドツアー　毎日曜日　展示品の解説
※催し物により変更もあります
●ギャラリートーク　毎日数回
展示品の解説を行います
●特別展
バグパイプ博覧会パート 2
「風に歌う、風に響く～バグパイプの世界～」
8/2（土）～ 8/31（日）
●ワークショップ
「インドネシア　ジャワ島のガムラン入門」
8/29（金）　18:30 ～ 21:30　楽器博物館展示室
講師：ハナジョス
（ローフィット・イブラヒム、佐々木宏実、西岡美緒）
「インドネシアのジャワ舞踊～入門編～」
8/30（土）　9:30 ～ 12:00　研修交流センター
講師：西岡美緒
「インドネシアの影絵人形　ワヤンを作ろう！」
8/30（土）　13:30 ～ 16:30　研修交流センター
講師：ハナジョス（ローフィット・イブラヒム、佐々木宏実）
「モンゴルの喉歌ホーミー入門」
9/21（日）　10:00 ～ 11:45　研修交流センター
講師：福井則之
●ミュージアムサロン　14:00＆15:30　（天空ホール）
8/14（木）「アンクルンをひこう！」　出演：当館職員
8/16（土）「クラリネットアンサンブル」
出演：浜松クラリネット・クワイアー
8/17（日）「オカリナ」　出演:音心（えんじろう、亮子）
8/21（木）「アンクルンをひこう！」　出演：当館職員
8/24（日）「アンクルンをひこう！」　出演：当館職員
8/26（火）「アンクルンをひこう！」　出演：当館職員
8/31（日）「サクソフォンアンサンブル」
出演：浜松サクソフォンクラブ
9/7　（日）「金管アンサンブル」
出演：ハママツブラスアンサンブル
9/14（日）「リコーダー、チェンバロ、
ヴィオラ・ダ・ガンバによるアンサンブル」
出演：梶原弘子、萩野伊都子、当館職員

浜松市楽器博物館だより
平成 26 年 8 月 10 日発行　No.91
編集　浜松市楽器博物館
〒430-7790　浜松市中区中央 3－9－1
TEL 053-451-1128　FAX 053-451-1129
E-MAIL wakuwaku@gakkihaku.jp
URL http://www.gakkihaku.jp/